



これまでの私、そして、これからの私

チャン ティ アイ リー
TRAN THI AI LY

自分の成長は誰もが考えることですが、決して思い通りにはいかないものです。私にとって介護の仕事は難しいとの思いがあります。それは体力的にもきついし、精神的にも忍耐が求められる仕事だからです。そんな中でもしっかりと自分が成長できているのは、良い環境で働いているからだと思っています。

私は4月から3年目に入りましたが、1月からフロアのリーダーを命じられました。最初にそのことを聞いた時「何で私が」と真っ先に思いました。それは自分ができるとはとても思えなかったからです。特に私にとっては夕礼への参加が高い壁となります。夕礼ではリーダーが担当するフロアのお客様の状況を他の職員へ報告します。そして、何より大変なのはそこで話される日本語のスピードが速く、専門用語が数多く出てくるので私の耳がついていけないことでした。リーダーとなればその任務は避けられず、私がその場にいる光景を想像しただけでも行きたくない心境になります。そんな不安を感じながらも指導員さんを信じて私は挑戦することにしました。

初めてリーダーとして職務に当たった日の大半は、周りの職員さんが協力してくれたおかげで、何とか無難にこなすことが出来ました。しかし、例の夕礼が近づくと私の指導員さんが発表する内容を付きっきりで教え始めました。専門用語が苦手な私は初めて見る単語にフリガナを書いてもらうなどその準備に大慌てでした。指導員さんも「時間がない。どうしよう」と焦

りの表情でいっぱいです。

そして、夕礼で私の不安は的中しました。私は緊張の余り声も小さく、明らかに自信のない話し方になってしまったのです。きっと他の職員さんは「何を言っているのか分からない」と思われたことでしょう。突然の質問にも自分で答えられないなど、初日は恥ずかしい思いだけが残りました。しかし、指導員さんに落胆の表情はなく「次も頑張りましょう」と言って、次回も応援する姿勢を見せています。未熟な私になぜこんな職務を与えたのでしょうか。それは私をもっと成長するため、敢えて難しい挑戦をさせたいという指導員さんの考えだということを知りました。

多分、これまでの私だったら「疲れた」「無理です」と言って、間違いなく弱音を吐いていました。しかし、介護士として一人前になって欲しいと思う指導員さんの私への期待が感じられるからこそ、与えられた職務をやり遂げたいとの想いが強くなりました。また、私が実習を終えたその先を考え始めたことも私自身が変わった大きな理由の一つでもあります。将来の自分がどうあるべきかを考えたら「今よりもっと成長しなければ」と強く意識し始めたのです。幸いにも私の職場は指導員さんを始め、私を成長させてくれる環境があります。だからこそ、私はリーダーの職務で成長できた証を他の職員さんにもお見せしたいと思っています。これからの私に期待する。そんな想いが今、ここにあります。

受賞の喜び



チャン ティ アイ リー

国 籍 ベトナム
職 種 介護
実 習 実 施 者 株式会社ツクイ
監 理 団 体 鳩の家協同組合

私は去年の作文コンクールで優秀賞をいただきました。表彰式に出席した時に、最優秀賞の方が沢山の人の前で作文を発表するのを見て、自分も来年は発表したいと思い、頑張る決意でいました。

しかし、今年、作文を書くことをとても迷いました。それは「今年、何も受賞しなかったら恥ずかしいな。」と思ったからです。でも、諦めず、何を書こうかあれこれ考えました。

そして最後に「これだ！介護職として私が理想としている指導員さんのことを書こう。」と決めました。

作文を書き終わった時、私の中では賞をいただくことや、皆様の前で発表したい、という気持ちは忘れてしまっていました。だから、8月3日に突然施設長から「最優秀賞を受賞したよ。」という知らせを聞いてびっくりしてしまい、自然に涙がふれてきました。去年の表彰式で感じた、作文を発表したい、という思いが実現することになりました。夢じゃないんだ、と何度も思いました。

この作文は、私一人で受賞したのではなく、いつもお世話になっている施設の職員の皆さん、本社の方々、そして組合の方たちのおかげです。

私を応援してくれる人がいるから今の私があると思っています。

今回の作文コンクールでの受賞は、私の人生の中で忘れることができない大切な1ページになりました。

これからも、私が理想とする指導員さんのようになれるよう頑張ります。

皆様、本当にありがとうございました。

指導員のことは

アイリーさん、昨年の優秀賞受賞に続き、最優秀賞受賞おめでとうございます。大変うれしく思います。

昨年度の作文コンクールの時に感じた成長が留まる事なく伸び続けており、その向上心の高さと維持し続ける精神力に感服しております。

最近では、少し早口での日本語の聞き取りもだいぶん上達してきました。

コロナ禍でもあり、職場と自宅の往復のみで気分転換も難しいですが共に同じ時を過ごす事の出来る間は微力ながら公私問わず支えていければと思います。

この様な時期ではありますが、体調に留意し介護のみではなく日本の見聞を広げつつN2の試験に向けて更なる研鑽を願います。

ツクイ・サンシャイン成城

清宮 由紀